

今期の社会教育委員会議の進め方（案）について

1 調査研究の目的

前期の活動報告において整理いただいた本市の「社会教育充実のポイント」の実現に向けて、生涯学習課の事業を中心とした実際の事業展開を事例として調査研究をしていく。

2 運営のポイント

- (1) 委員の興味関心に基づき、回ごとに調査研究を掘り下げていく協議テーマを決める。
- (2) 関連する事業の報告を行い、現場の課題感を踏まえて実際の事業展開に反映させる。
- (3) 必要に応じて市内関係者や有識者を招き、協議テーマについて委員が学びを深める。

3 会議の枠組みについて

■年間3～4回程度

（学校関係者、学識経験者の参加しやすい時期として主に5月、8月、2月を想定）

■最終回には、2年間の協議内容や反映した事業実績等について報告を取りまとめる

4 前期調査報告の概要

○4つの視点 「出会い」「継続」「つながり」「活かす」

キャンパス おだわら事業	(1) 市民ニーズの把握
	(2) 若年層を意識した企画の検討
	(3) 子ども向けイベントの拡張と親も楽しめる仕掛けづくり
	(4) 「愛着」の醸成・「郷土教育」の充実
サークル・団体の支援	(5) 多様性を尊重した交流型・体験型の学びの実現
地区公民館支援	(6) 「地区公民館」を利用した地域教育の可能性（縁側のような場所）
家庭教育学級・PTA研修	(7) 「学校」をフィールドとした地域教育・家庭教育支援など

5 今後の進め方（案）

開催時期	協議テーマ（案）
令和9年 2月頃	①市民ニーズを把握するには (例)・行政における生涯学習事業の説明 ・キャンパス講師の活動状況の把握に向けた取り組みについて ・既存講座のアンケート結果やインタビュー等の調査手法の検討
令和9年 5月頃	②（7つのポイントから選定されたテーマ） <報告事項> ・令和8年度の事業実績 ・令和9年度の事業予定 など
以降	委員の協議により協議テーマを決定 (例) キャンパス講師の活動状況、夏休みおもしろ学校の報告 など